

コロナ禍の世界

横浜市駐在員リポート

20

現在、中国では外国からの「人」「物」の流入管理と初期の検査、隔離、封鎖を徹底しているが、感染を完全に防ぐのは難しい。入国者は通常、空港でPCR検査と問診を受け、健康証明アプリをダウンロード

する。専用車でホテルか自宅に入ると2週間は外出禁止。無断外出すると必ず発覚する。それでも9月、ミャンマーに接する雲南省瑞麗市でクラスター(感染着集団)が発生、都市封鎖となった。輸入品の取り扱いについても、初夏に大連、北京両市の海鮮市場でクラスターが発生。以来、冷凍食品とその関連事業者を対象に定

査をする事態となった。専門家は「寒くなると第2波が来る」と注意喚起しており、市民はマスク、消毒液で備えている。健康証明アプリはほぼ全国民が携帯に入れ、飲食店でも一人一膳ずつの取替が推奨されている。感染者はゼロにならないが、第1波で都市封鎖や在宅勤務・授業を乗り越えてクラスターを抑えた成功事例も多いので、「第2波はないか、あっても小規模だろう」という希望がある。上海が寒くなるのは、西北の風が吹き、カニの身が締まっておいしくなる10月下旬。みんなで上海蟹を安心して味わい、2度目の冬を無事に越えたいところだ。

(横浜市上海事務所長・川島とも子)

第2波警戒 冬に備える

上海



取箸の推奨広告。「++×」にかけて、「愛情が加わり、感染が減る。ウイルスは除かれて、幸福は倍に乗じる」とある。テーブルのQRコードを携帯電話で読み取って注文と支払を行うのも感染防止につながる

＝6日、上海市南翔の小籠包店